

総括質問

公民会組織の見直しを



市来 修議員

市来 修議員 公民会は任意団体で地域社会に重要な役割を果たしているが、高齢化と戸数の減少で役員の選出、活動等に支障をきたし、地域経済、社会文化は衰弊して行く、

現在は地方分権の時代であり、地域は自分たちでつくる意識改革が必要である。現在、九〇の公民会があるが、理想的には一公民会は一二〇戸数なので、私なりに整理すると五二になる。町の助成金が平等割で一公民会に五万九千円となっている。町の厳しい財政の節約と今後の公民会の自主的活動が必要と考えるが。

北村町長 高齢化で小規模の公民会は活動自体に支障があ

り、合併は当然考えられる。

佐志地区では三件の合併が実現した。ほかにも自主的な取り組みもあるが、合併については、歴史的背景や地理的条件、産業構造等課題もあるので、自治組織の主体性を尊重したい。

財政面は厳しいが、公民会の運営が円滑で活発な活動が展開されるよう支援していきたい。

市来議員 合併に関する町の姿勢として、「宮之城町公民会合併等の推進に関する条例」がある。第四次総合振興計画では、公民会の格差の是正を提唱している。また、二月には公文書で、すべての公民会に自主防災組織をつくるように要請がなされている。地域社会を充実するにも合併は必要ではないのか。

町長 地域住民の主体性を大事に思うと、慎重にならざる

をえない。合併の必要性を基本として、情報を積極的に提供していきたい。

農産物消費
拡大のPRを

市来議員 国際化による農産物の輸入増で、価格の暴落と地元産の消費に大きく影響が

出て、農業者は経営が厳しくなっている。生産直売所で地元産の表示をしたら、新鮮で安全ということ、消費者に好まれた。今は健康食嗜好であることから、地元農産物を使った栄養バランスのとれた献立を作り、町民に広くPRし消費拡大を図れば、農家の所

得向上にもつながると思うが。

町長 農業を取り巻く環境は、輸入、BSEの発生、鶏肉偽装等の問題で生産者の不安、国民の食に対する不安や不信感が益々強くなっている。今、消費者が求めるものは、低価格で安全・安心・新鮮であり、食卓の安全を守るのは農業者とその団体である。本町では農産物の消費拡大と健康づくりに、農業研究会を中心に有機無農薬栽培、減農薬栽培、減化学肥料栽培の認証制度で、今後も生産直売所や町民等、広域的にPRし、販売戦略を展開したい。

市来議員 物を売ること、なぜこの品物は良いかを消費者に訴えることである。繰り返しになるが、専門家で栄養のバランスのとれたメニューを作り、広域的に地元農産物のPRはできないか。

町長 スーパーでは、これは健康に良くこんな料理方法ですれば良いとPRしているの、参考にしながら、地元農産物の消費拡大に努めたい。



人気が高い地元農産物（平川郷平川屋）